



まつり当日は、自治区会を中心とした八団体から百名を超える世話が終日活動が続けられた。宿場を

令和最初の筑前木屋瀬宿場まつりは、十二月三日に開催されました。まつりは木屋瀬の文化的財産を基軸に子どもから高齢者まで住民参加の手作りイベントとして機能してきました。街の活性化や伝統芸能を目的として「みんなで踊ろう宿場をどり」をキャッチフレーズに総務企画・広報、運営の各部門が力を合せてまつりの成功を期してきました。

どりの総踊を中心に、市の消防音楽隊の演奏、木屋瀬中学校吹奏楽部のパレード演奏、筑前各地の伝承盆踊り、歴史探訪スタンプラリー、綱引き大会や大道芸、そして街並み史料館などの企画でまつりを盛り上げてきました。また、青空市場やフリーマーケットによる出店もまつりを大きく賑わせてきました。



広報部長 徳水興紀

「メモリアルイヤーを記念してピアノ三重奏で彩る音楽の世界」というテーマで、わかりやすい説明と共に、生誕250周年を迎えるベートーベンが作曲した「喜びの歌」、チャイコフスキーの「花のワルツ」、また、オリピックの年あたり日本の歌メドレーや「涙そうそう」など、幅広い年齢の方々に楽しんでいただける名曲の数々を披露していただきました。

ヴァイオリン、チェロ、ピアノの三重奏の音色は美しく、また、弦楽器を解体し、普段は見ることのない中身を解説する楽しいトークも併せて会場内は大いに盛り上がりました。

当日はとても寒い日ではありましたが、来場者は約200名と大変多くの方にお越しいただき、ほぼ満席となりました。ご来場誠にありがとうございました。



第19回 木屋瀬歌留多大会

令和2年1月12日(日)開催。新年恒例の「木屋瀬いろは歌留多大会」も回を重ね、今年は19回目となり総勢60名の皆さんに参加していただきました。小学生の部と一般の部(中学生以上)に分かれ、トーナメント方式で試合を行いました。子供も大人も熱気に溢れ、会場では札の取り合いが白熱していました。こやのせ座運営部会の方々が用意した温かいぜんざいには、ご来場の多くの皆さんに喜んでいただきました。

小学生の部 (参加者 36名)	
・優勝	池田 実桜 (木屋瀬小学校6年生)
・準優勝	清水 瑚太 (木屋瀬小学校6年生)
・第3位	池田 彩希 (木屋瀬小学校2年生)
・第3位	森田 唯月 (木屋瀬小学校6年生)
一般の部 (参加者 24名)	
・優勝	帖地 卓也 (一般)
・準優勝	堀下 晃生 (木屋瀬中学校2年生)
・第3位	北野 愛 (一般)
・第3位	林 百代 (一般)

入賞者

寄せ太鼓

長崎街道木屋瀬宿記念館 寄世太鼓部 北九州市八幡西区木屋瀬三丁目16番26号 (〒807-1261) TEL 093-619-1149 FAX 093-617-4949

第27回 筑前木屋瀬宿場まつり

町の活性化を住民の手で

「メモリアルイヤーを記念してピアノ三重奏で彩る音楽の世界」というテーマで、わかりやすい説明と共に、生誕250周年を迎えるベートーベンが作曲した「喜びの歌」、チャイコフスキーの「花のワルツ」、また、オリピックの年あたり日本の歌メドレーや「涙そうそう」など、幅広い年齢の方々に楽しんでいただける名曲の数々を披露していただきました。

第74回企画展「木屋瀬宿 伝統の祭り」

みちの郷土史料館にて、第74回企画展「木屋瀬宿 伝統の祭り」を令和元年10月26日(土)〜令和2年1月13日(月・祝)まで開催しました。期間中來場者461人と多くの方々に足を運びいただきました。

れる古文書、そして宿場をどりの衣装やそれまで製作された宿場をどりを紹介とともに様々な資料を展示しました。お祭りを通じて町の中で伝えられてきた歴史や文化をお楽しみいただけたでしょうか。

宿場町木屋瀬。心に郷土が染みてくる。歴史とふれあう記念館。

筑前木屋瀬 第7回

今昔歳時記

紅屋泰助氏(故 柴田泰助氏)の「筑前木屋瀬今昔歳時記」(「ひろば北九州」連載)の第7回目です。今回は、7月の行事・風物について、後編を「紹介させて戴きます」。

祭二日目。朝の火花を合図に本町六町赤山笠は遠賀川の一番鎮所跡(船着き場)へ、新町七町青山笠は四番鎮所跡へと(お汐井とり)の行事から山笠は始まります。

「お汐井」を神社へ奉納後、今年の人形飾り山笠を山笠会館から両山笠当番町へと「寄せ太鼓」を打ちながら運び、「山笠事務所開き」を一番山笠から二番山笠の順で執り行います。事務所開きの神事で安全を祈願した後、赤山笠・青山笠の両山笠とも総取締役・掛合・行動・保護の指示に従い、町内を巡行します。

宵闇迫る頃になりますと、それまで自町内を練り廻っていた赤・青の両山笠は、提灯の明かりに飾られ、街道筋の本町・中町境の四つ角に集結、対峙して待ちます。

火花の音を合図に、其の年の一番山笠は須賀神社参道の祇園町筋(約百材)を一気に駆け下り、神社前で急角度の右変針後、境内の清道に走り込み、本殿前にて急停止。右回りに左側面から後面・右側面と二七〇度廻して神前に披露した後、待機場所へ納め、神前に揃ってお祓いを受けます。以上が一連の作法です。

二番山笠は、一番山笠の棒尻が神社境内に入るのを確かめた「二番山笠掛合の提灯」を合図に、一番山笠の後を追う、神前にて一番山笠と同じ作法を行います。

一番山笠は二番山笠が境内に走り込んで来る前に奉納を終える迅速さを必要とし、二番山笠は一番山笠が奉納を終えない中に境内に走り込む迅速さを競う。これが本来の姿です。

祭二日目の正祭日。宵に行う山笠の奉納行事を「宮入」と云い、前日と交代し、其の年の二番山笠が先になり、一番山笠が後を追います。作法は前日と同じですが、祇園二丁目ともなり、山笠は自町内から相手町内へも練り出し、旧街道筋全体を、烈しい「がぶり」や「蛇行」を繰返し、曳き廻します。為人形や飾りつけが崩れ落ち、又、宮入後の追山笠に備え軽量化の為に外されたりします。故に、半飾りの状態で行われるのが常でございます。

山笠に就く者は奉納・宮入とも合図の時間が迫るにつれ、緊張の余り喉は渇き、鳥肌が立つ程に興奮。合図で山笠が走り出してからお祓いを受けるまでは無我夢中となります。尚、奉納・宮入を終えた二基の山笠は、再び旧街道筋へと練り出し町内を練り廻した後、当番町の山笠小屋へ納められるのですが、特に宮入の後、追山笠やぶつかり合いなどの宵山笠は夜の更けるまで続いていました。(現在は安全性を重視した方策をとって居ります)

以上が木屋瀬祇園の一部始終でございます。山笠関係者は、祭が終わった後も二三日、耳朶から太鼓の音が離れないのでございます。さて、祇園が過ぎれば梅雨明け。氏神様・須賀の杜より聞こえる蝉時雨に、木屋瀬は愈々盛夏の趣となっていくのでございます。

いろいろかるたのご紹介

りんりん ずず 弁財天

長徳寺飛び地内に鎮座する弁財天で毎年、仲秋の名月の夜、弁財天講有志による弁財天大祭が厳か且つ盛大に執り行われます。長徳寺弁財天は、弁財天の頭に入頭蛇身の宇賀神を戴く二面八臂の「宇賀神弁財天」で、同体の弁財天が妙蓮寺にもございます。

木屋瀬宿記念館 収蔵品紹介

「簪(かんざし)・櫛(くし)・笄(こうがい)」

いずれも江戸後期に製作されたものと思われます。当館で収蔵しているものは主に鼈甲製(べっこうせい)が多く、おそらく長崎鼈甲であると思われます。



上: 笄 (こうがい) 下: 櫛 (くし) 右: 簪 (かんざし)

鼈甲は熱を加えることで加工がし易く、工芸品や装飾品の材料として飛鳥・奈良時代から使われていました。17世紀になると、外国商船によって鼈甲の材料であるタイマイが輸入されるようになります。当時は鎖国によって貿易が許されていたのが長崎のみであったため、長崎での鼈甲細工作りが盛んになります。鼈甲は長寿を祝うめでたいものとされ、簪・櫛・笄として各地の富裕層に愛用されました。しかし、高価であることに加え、元禄時代には「奢侈(しゃし)禁止令(きんしれい)」(贅沢を禁止して儉約を推奨・強制するための命令)により鼈甲が禁止されるなど、一般庶民には手の届かない大変貴重なものでした。

木屋瀬は、貿易の窓口であった長崎に繋がる街道の宿場町であったこと、追分(おいわけ)の宿・遠賀川の川岸場(かしば)として運輸の重要な拠点であったことから経済的にも豊かに繁栄していたため、貴重で高価であった鼈甲細工が多く残されているのではないかと考えられます。

現在、みちの郷土史料館1階にて展示しています。ぜひ記念館に遊びに来てください♪ (木屋瀬宿記念館 学芸員: 岩崎秋沙)

令和元年12月7日(土)、8日(日)に須賀神社にて5名の児童による令和元年度子供恵比須頭が執り行われました。

この祭りは、木屋瀬に江戸時代から伝わる由緒ある行事で、旧来は、男の子が数えて11歳(現在の小学校4年生)になりますと、地域の若衆(大人)の仲間入りをする儀式として執り行われたものです。



令和元年度 子供恵比須頭

現在では、毎年12月の第一土曜日と日曜日の2日間に渡り行われ、笹山車を作りそれに紅白の幕を張り、頭になった子供たちの名前を書いて町内を練り廻ります。

笹山車の巡行の他には、須賀神社に伝わる社宝(御幣、獅子頭など)を奉持した神幸の行列が「とまれ」とまれ 旅の客」と歌いながら町内を練り廻ります。

おたのしみ 昔話

街道松

【柴田豊廣遺稿集より】

江戸時代、天下を統一した徳川家康は、道中奉行の管轄下に置く五街道を設け、これに準じた脇街道も設けた。木屋瀬を貫いている長崎街道は、道幅も広く家並みも良く脇街道ではあるが、五街道に等しく重要視されていた。この長崎街道の街道松は、木屋瀬香月間には昭和二十年頃まで真名子や緑地区や池田地区に残っていた。

第48回 須賀神社 祭り歳時記 (その3)

昨年五月一日から、元号が「平成」から「令和」に代わり、明仁天皇(125代)が退位され、新しく徳仁新天皇(126代)が即位されました。



須賀神社社殿

す。特に明治四十年五月十四日には、現在の本町、中町の大半の百三十数戸が焼ける大火事に見舞われました。



どんど焼き

五月に入りますと、木屋瀬町内では、「火事籠り」の行事が行われます。

元号も新たに「令和」の春家族寄り産土神社初詣 宿場木屋瀬街づくりの会 本町 野口靖彦

長崎街道ひなまつり 開催中

木屋瀬宿立場茶屋銀杏屋

今年で8回目の開催となる「長崎街道ひなまつり 木屋瀬宿立場茶屋銀杏屋」は、旧長崎街道沿いの観光文化施設5施設が連携して取り組む、おひな様やそれに関連する展示イベントです。



- 【北九州市立長崎街道木屋瀬宿記念館】 開催期間：2月8日(土)～3月31日(火)
【旧高崎家住宅(伊馬春部生家)】 開催期間：2月8日(土)～3月31日(火)
【江戸時代末期の宿場建築の様相を色濃く残し、市指定文化財でもある屋敷の中に約500体のひな人形が展示されています。】
【江戸あかりの民藝館】
【立場茶屋銀杏屋】